



# インドからの便り

JICA協力隊 2019年1次隊

氏名：西澤 ひかり 職種：障害児・者支援

2020年8月21日 第4号



ワナッカム！（タミル語でこんにちは）2019年1次隊としてインドのチェンナイに派遣されていました、西澤ひかりといます。現在は新型コロナウイルスの影響で帰国をしていますが、2019年7月～2020年3月までおよそ8か月間、障害児・者支援の職種で活動していました。本来の任期の半分も現地にはいられていませんでしたが、8か月で私が行った活動や、任地の様子をお伝えしたいと思います。

## 南インドのステキな習慣

さて、今回は仕事のことではなく、任地である南インド・チェンナイの生活の中で出会った素敵な習慣を紹介したいと思います。

今回はチェンナイの**オシャシ**についてです！

それはこちらです！



分かりますか？写真の女性の頭に注目してください。何か付けています。これはお花です。しかも生花！チェンナイでは、女性たちは子どもからおばあちゃんまで、毎日のように生のお花で髪を飾るのです。花の種類は白いジャスミンが多いですが、似たような白い小さなユリ科の花や赤いバラ、黄色やオレンジ色など様々なお花をみなさんつけています。このお花を付けている女性が近くにいと、ふわっといい香りがして、ちょっと幸せな気持ちになります。ということはつまり、自分が付けていると一日中いい香りに包まれるんです。ステキじゃないですか？

このお花、よく見ると花の部分だけをひもで器用に繋げて長いひも状の髪飾りにしてあります。実はタミルナドゥ州では、いたるところ花売りの女性がいて、路上でこの花飾りを作っているのです。



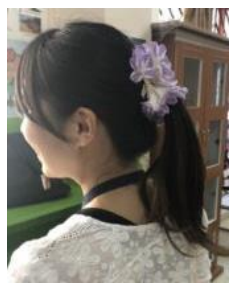
ほしいときは路上の花売りの女性に話しかけて購入することができます。このとき使う「ムラン」という単位があります。1ムランは肘から中指の先までの長さです。髪につける場合は二つ折りにして留めますので、1ムランで一人分です。人によって肘から指先までの長さ違うよね!?!というツッコミは置いて、笑



「オル ムラン ヴェーノン!」(1ムランちょうだい!)

とえば肘を使って測って切ってくれます。1ムラン20~30ルピー(約30円~45円)で買えます。

あとは髪の結び目あたりにピンで留めるだけで、動いた時などに髪と一緒に揺れていい香りを届けてくれます。タミ



ルナドゥ州の女性たちは自分で編んで作ることもできますので、家庭に花がある人の中には、自分で毎朝花を摘んで作っている人もいます。一度編み方を教えてもらいましたが、私にはとても複雑で、これを毎朝作るってすごいことだと思いました。また、材料は生きたお花ですので、使えるのはせいぜい一日、暑い時期だと一日ももたず茶色く変色してしまいます。

編む手間や毎日買うコストを考えたら、可愛い髪飾りを買った方がずっと楽なはずなのに、それでも毎朝編む、もしくは道で買って生のお花で髪を飾るタミルナドゥの女性たち。

この土地で暮らす人々は、愛や幸福、繁栄、幸運のシンボルとして「花」を生活の中にいろんなところに取り入れているんだそうです。

とっても素敵ですよ。そんな儚さも、それをより一層美しく見せてくれるような気がします。

私自身、喧噪と混沌のインドの中で、ふいに花たちのいい香りがふわっとして癒されたことが何度もありました。

私の緊急帰国が決まった際、いつも一緒に仕事をしている同僚が「ハイ、明日の分。」と、当たり前のように翌日用のジャスミンの花飾りをくれました。私がこの花飾りに興味をもつようになって以来、時々私の分も作ってくれた同僚で、私が翌早朝の飛行機でチェンナイを発つことを知っているのに、いつものように花をくれたこと、それだけで涙があふれました。また、個人的に私に障害児との関わり方や指導案についてよく質問などをしてくれた大学生の一人は、チェンナイを離れる当日の朝に私の家を訪ねてくれ、お別れに小さなオレンジ色の花をくれました。それらの花を頭に飾り、引かれる後ろ髪にもいい香りが漂うような思いでチェンナイを去ったことは忘れられません。

チェンナイで花と身近に生活したこと、これからもずっと心に残っているでしょうし、日本でもそんな日々を思い出して、花を身近に置いて生活できたらと思います。

